

(国土交通省、東京都速記メモ)

東京外かく環状道路(関越道～東名高速)沿線区市長意見交換会(第5回)概要メモ

1. 日時：平成15年11月28日(金) 14時30分～15時50分
2. 会場：東京都庁第一本庁舎北側42階 特別会議室B
3. 出席者：志村 練馬区長、小林 杉並区助役(代理)、土屋 武蔵野市長、清原 三鷹市長
長友 調布市長、矢野 狛江市長、青山 世田谷区課長(代理)
渡辺 関東地方整備局長、勝田 東京都都市計画局長
4. 提出資料 大臣会見録、知事会見録、環境調査について、
インターチェンジ等について、オープンハウスの概要

(1) 各区市長から出された意見概要

(三鷹市長)

- ・総合的な検討をするために庁内に「三鷹市外かく環状道路対策連絡会議」を設置し、多方面から検討することを始めた。外かく環状道路が周辺に及ぼす影響について検討する必要があるの
で、交通量の予測などの詳細なデータを早急に示して欲しい。
- ・外環本線を大深度地下構造としても、三鷹市は開削区間が一番長く、周辺地域に及ぼす影響が
最も大きい。
- ・地下トンネルの防災上、安全上の危機管理対策が重要なので、このような観点からの調査も要
望したい。
- ・水源用の深井戸がたくさんあり、市民からも水源への影響を心配する声があるので、調査し、
情報公開することを重ねて要望する。
- ・計画づくりが進展していく過程で、新たに環境の調査が必要となった場合は、市と協議しなが
ら追加して実施して欲しい。
- ・情報が新聞報道で最初に知ることが繰り返され、信頼関係の損なわれるが続いている。市
民と直接対応する市の立場を尊重して欲しい。

(武蔵野市長)

- ・一部に「大深度地下で外環を作るというのは方針として決まっていない」と言う人がいる。
しかし、今年3月に大深度地下の方針が国と都から出たはず。正式に変更になったということ
をはっきりと示して欲しい。
- ・地元に対するメリットという観点からすると、ICがなければ単なる物流のものとなってしまう。
合理的な範囲でICを作っていくべきと考えている。
- ・地下トンネルでの事故対策等の安全確保策について計画段階から検討すべき。
- ・最高、最新の知見に基づいてアセスをやってもらいたい。
- ・大深度地下部分の地上部をどうするか、議論することが必要。東京都がリードして議論の場を
作って欲しい。
- ・「必要なICは作る」ということをはっきりさせるべき。

(杉並区(助役))

- ・従来から、「早く安く」との考え方に立って大深度であれば基本的に賛成と言っている。
- ・環境調査については、区長の意見書を踏まえて十分やって欲しい。
- ・特に善福寺池や善福寺川の環境調査を十分されたい。
- ・ICの大臣発言については、有識者委員会最終提言に沿ったものであり、納得できる話である。
- ・今年の6月にIC反対を区長から国と都に要望しており、9月区議会でも青梅街道ICは不要
との意向だった。
- ・大深度地下の方針をどこでオーソライズするのか。今後どのようなスケジュールでやっていくの
か明示して欲しい。

(練馬区長)

- ・ICは、外環計画の根幹に関わる問題である。将来に禍根を残さないためにはゼロICには反
対する。
- ・区民の利便性、大泉IC周辺地域の抱える諸問題の改善を図るためには、青梅街道ICと目白
通りICは必須の要件である。
- ・区民に十分な情報提供を行うためには、IC有無による環境・交通などのデータを早急に提示
されたい。
- ・まちづくりは、外環計画と一体的に進める必要がある。特に上石神井付近の連続立体交差化は
地元としても検討しているが、広域行政の立場で検討して欲しい。
- ・区議会に促進議員連盟があり、私と同意見だ。
- ・個々の自治体には、個別の懸案があり、国と都は個々の問題についても聞いて欲しい。

(世田谷区(課長))

- ・外環道は、広域的な視点から必要な道路であるとともに、区にとっても環状8号線等幹線道路の渋滞軽減、大気汚染の改善が期待できるため、地下化を前提として必要な道路と考える。
- ・環境調査については、今後の計画づくりの基礎となるので、しっかりした調査を行って欲しい。
- ・世田谷通りICは、道路混雑の状況や環境への影響等から、道路拡幅等の抜本的対策が為されない限り、現状では設置は困難と考える。
- ・野川・国分寺崖線等自然環境への配慮と地域のまちづくりへの支援や協力等に特段の配慮をお願いする。
- ・早期に東名以南の計画について明らかにして欲しい。
- ・時間管理の観点から、国土交通省・東京都は、今後の議論の道筋を明らかにし、スピード感を持って取り組みを進めるべきである。
- ・外環道が周辺環境と調和した高速道路として、また、住民から歓迎される道路として整備が進むよう、国土交通省・東京都には、今後なお一層の尽力をお願いする。

(狛江市長)

- ・狛江の地域特性を考えて、野川周辺で厳正的確な環境調査をして欲しい。
- ・アセスがまとまった段階で一旦事業化の流れを止めて議論すべき。
- ・大臣の発言に対して、抗議の意見書を大臣に送付している。
- ・現在、PI協議会では必要性の有無を含め議論され、3月の方針では「ICは地元の意向をふまえ設置の有無を検討する」となっているのに、大臣が協議の場を離れて「ゼロインター」を公言されたことは、PI協議会、区市長会をないがしろにしたもの。大臣発言は撤回されたほうが望ましい。
- ・現在の国の財政状況下では外環計画に疑問を持っているが、関係住民、沿線区市などで民主的な合意が形成されれば、その流れは尊重する。

(調布市長)

- ・調布市においては、10月から広域交通問題等対策特別委員会を2回開催し、外環に関する議論を行っていただいております。反対決議への活路を開くものと考えています。
- ・市民が直接、外環を利用できるようにIC機能は必要と考えています。現状の中で考えられる素案を代替案を含め早期に提示していただきたい。また、検討にあたって、より詳細な交通需要予測のデータを示していただきたい。
- ・平成13年に示された「たたき台」の中では、街づくりも大きなテーマとなっていた。外環計画によって都市計画道路の整備が中断されており、また、地下化により付属街路が無くなるという状況においては、住環境の悪化など街づくりへの影響も懸念される。したがって、都市計画道路の整備など、総合的な街づくりが必要であり支援をいただきたい。
- ・生活再建救済制度は、国に積極的な対応をお願いしたい。各区市の足並みが乱れることのないように対応をお願いしたい。

(2) 国土交通省・東京都の意見概要

(国土交通省)

- ・環境の現地調査は、具体の箇所等がおおよそ固まってきたので、冬季の観測からスタートできるよう、ご協力をお願いしたい。
- ・大臣の発言は基本的に平成15年3月に公表した方針に沿ったものと認識している。
- ・PI協議会では必要性の議論が本格化しており、PI協議会での議論を大切にしていこうという考えに変わりはなく、今後も更に議論を深めたい。
- ・今後、より具体的な図面やデータを用意して、精力的に各区市と議論を深めていきたい。
- ・外環整備は喫緊の課題で1日も早い整備が望まれるため、早く安く完成できるように関係機関の合意が図られるよう努力して参りたい。
- ・出来るだけ早急に方向性を整理して、次回意見交換会では、更に具体的な議論をしていきたい。

(東京都)

- ・議論の進め方について、御指摘いただいた。テーマが多岐に渡り、過去の経緯もあるため、慎重に進めてきた。これまでどおり意見を幅広く聞いていくことを前提としつつ、行政の責任として具体的な方針を示し、議論をしていきたい。
- ・ICについては、これまで都として公式に必要であると発言してはいなかったが、庁内で議論し、外環本線を作ってもICがなければ利便性がないというのが都の考えである。
- ・大深度地下方式に変更するためには、現行の都市計画を変更する必要がある。ICは現行計画で決定されており、触れざるを得ない。時間管理をしながら議論していきたい。
- ・都は、ゼロインターでは、外環を整備しても都民が使えない道路では意味がないと、国土交通省に申し入れを行った。
- ・都としてインターチェンジの比較検討案など、具体的な資料の提出を国土交通省に要望しているが、区市でも必要な資料を要望し、詳細な検討を行ったうえで、区長、市長のご意見を賜りたい。
- ・地上部街路についても、早急に都の考え方を示し、意見を伺いながらとりまとめていきたい。